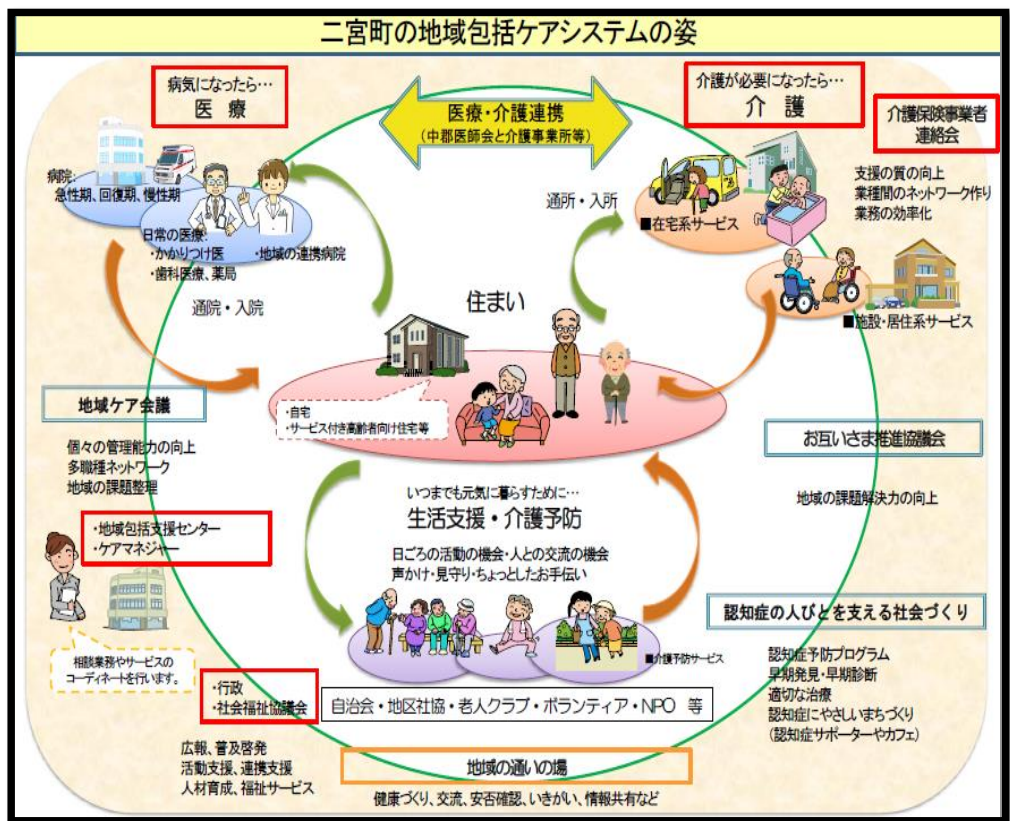


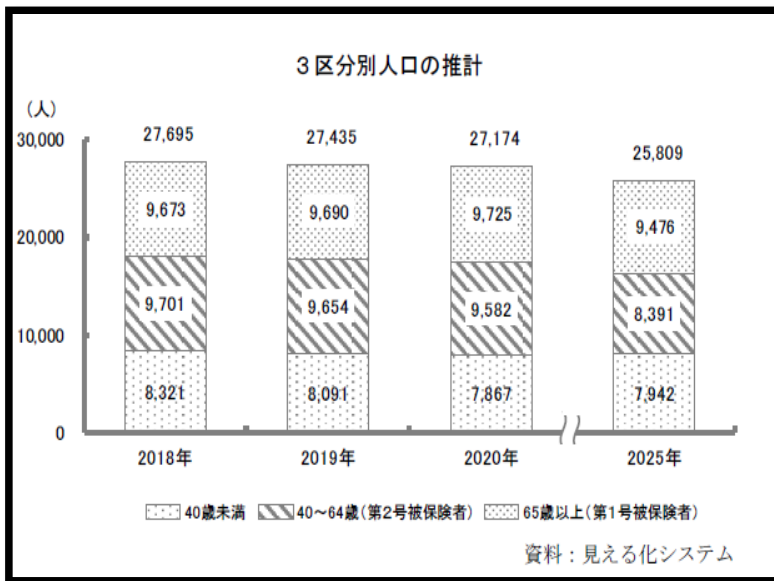
①地域包括ケアシステムの深化と推進に向けて
 (二宮町高齢者保健福祉計画及び第7期介護保険事業計画より)

高齢化のさらなる進行と要介護等高齢者の伸びを踏まえて、医療・介護・予防・住まい・生活支援の一体的な提供を図る地域包括ケアシステムの推進体制を整える必要があります。
 また、多職種協働による在宅医療・介護の一体的な提供や多様な生活支援サービス、地域における支えあいや見守りの体制づくりなどを推進し、高齢者が安心して暮らせるまちづくりを進めていくことが必要です。二宮町では、高齢化率が33%を超え、一人暮らしや高齢者のみの世帯が多くなっている状況です。また、認知症高齢者も増加しており、住民も含めた見守りや予防に向けての対策、認知症施策の周知や啓発、認知症の正しい理解の普及を進める必要があります。

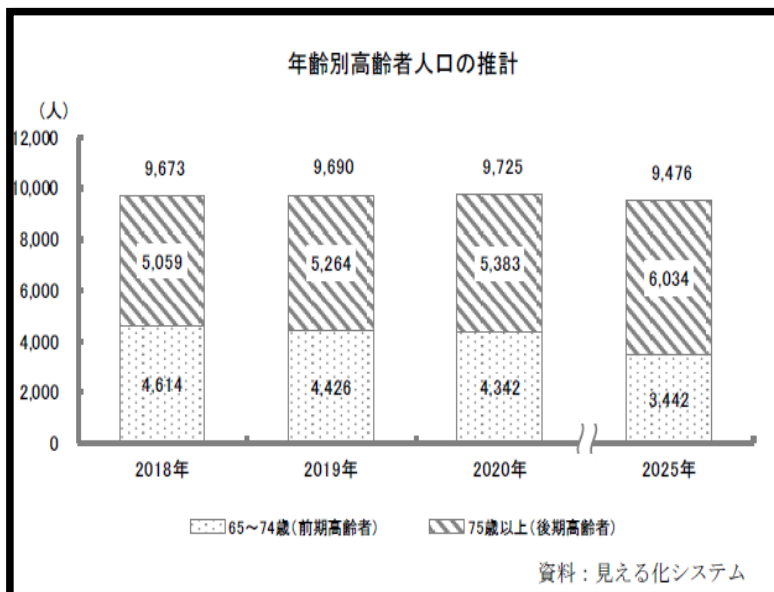
- | | | |
|-------------------|-----------------|---------------|
| 1 地域包括支援センターの機能強化 | 2 地域における支え合いの推進 | 3 生活支援サービスの充実 |
| 4 在宅医療・介護の連携の推進 | 5 家族介護支援の推進 | 6 安心・安全なまちづくり |



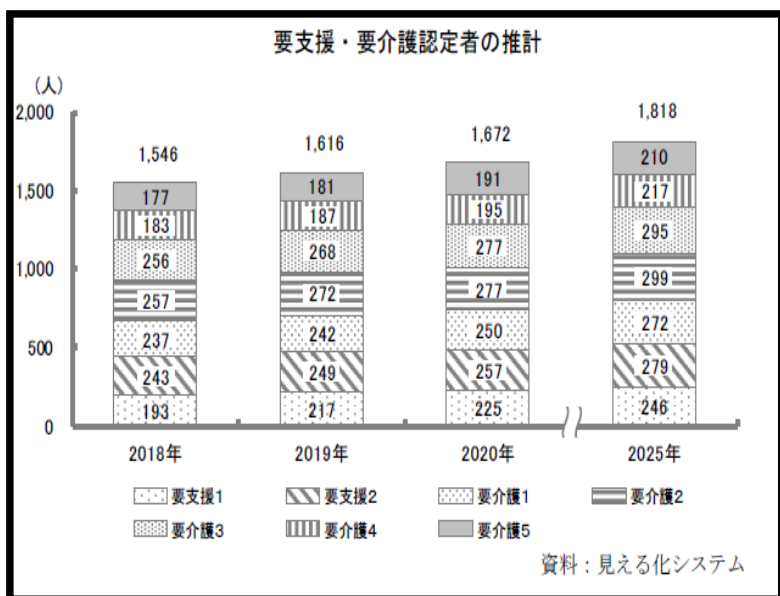
②二宮町の現状



将来人口の推計を行った結果、二宮町の総人口は今後も減少を続けると予測されています。すべての団塊の世代が後期高齢者に達する2025年の推計をみると、総人口が25,809人にまで減少する一方で、高齢化率は36.7%にのぼると見込まれます。



将来人口推計の結果によると、後期高齢者数は2020年には5,383人と、前期高齢者より約1,000人上回る見込みです。さらに、すべての団塊の世代が後期高齢者になると言われている2025年には、後期高齢者数は6,034人で6,000人を超え、割合は63.7%に達する見込みです。



要支援・要介護認定者の推移をみると増加しており、2017年では1,456人となっています。

また、2025年までは増加していくと見込まれて、2025年では1,818人になると見込まれています。

③地域ケア会議とは？ ⇒ 地域包括ケアシステム推進に向けての手法

専門家だけではなく、地域全体で支援し、地域で支えるまちづくりを目指していくための手法として、地域ケア会議があります。

医師会の先生や医療機関、ケアマネジャーやサービス事業所、民生委員や福祉関係者が一堂に会し、支援方法を協議しながら、皆が同じ方向を向いて協働できるようにしていくのが地域ケア会議です。個別のケースを検討し、それぞれの機関で何かできるのを検討していく場であったり、それぞれの機関の輪が広がるようなことも目的とします。また、実際に支援をしているチーム員の質が向上するような役割も持っています。他にも二宮町では何が足りないかを協議し、他の会議にも働きかける役割も持っています。

④会議の全体像

会議名称	実施主体	開催回数	出席者	目的・機能
二宮町地域ケア個別会議	包括	6回	関係機関・団体等	個別課題解決 ネットワーク構築
二宮町地域ケア課題整理会議	包括	2回	関係機関・団体等	ネットワーク構築 地域課題発見
二宮町地域ケアネットワーク会議	包括	2回	関係機関・団体・ 地域住民等	ネットワーク構築 地域づくり、資源開発
二宮町地域ケアネットワーク会議	町	1回	地域包括支援センター運 営協議会委員	政策形成

⑤令和2年度地域ケア会議 出席者

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	小計
医師						1	1	1	1				4
歯科医師						2							2
薬剤師						3			1				4
歯科衛生士						1							1
ケアマネ			1			3	8	10	6				28
訪問看護師			1			2							3
セラピスト						1							1
デイサービス相談員						0							0
サービス提供責任者						3							3
医療 ソーシャルワーカー						1	1						2
福祉用具相談員						1			1				2
障害相談事業所						0							0
民生児童委員						6	1		1				8
二宮町			1			6	2	2	3				14
平保						1	2	2	2				7
社協						1	1	1	1				4
包括（福祉系）			1			4	2	2	2				11
包括（看護師）			1			2	3	4	4				14
その他						4							4
合計	0	0	5	0	0	42	21	22	22	0	0	0	112

※4月はコロナウィルス感染拡大防止のため書面会議

※5・7・8月はコロナウィルス感染拡大防止のため中止

※6月は臨時で開催

⑥地域ケア会議 詳細

地域ケア会議が有効と考えられる事例

- ①支援者が困難を感じているケース
- ②支援が自立を阻害していると考えられるケース
- ③必要な支援につなげていないケース
- ④権利擁護が必要なケース
- ⑤地域課題に関するケース

6/11（木） 事例提出者：高齢者支援センター（主任ケアマネ）

対象者：67歳 女性 夫婦世帯

選定理由：支援が必要だがサービスにつなげていない（支援が足りない）

直接目的：夫が介護者であるが、適切なケアができず、低栄養・褥瘡ができていない状態。
子はいるが、介護はできない状況。経済的にも苦しい状況

間接目的：個別課題の解決

会議の概況

事例検討

- ・事例検討用紙を使い、出席者で現状共有

今後に向けて（課題解決の具体的な方法と役割分担）

- ・褥瘡：皮膚科への受診方法の検討→ケアマネ
- ・レスパイト：SSを増やす→負担限度額を申請し、経済的な負担の軽減。→包括
- ・褥瘡が悪化しないケアや介護指導→訪問看護師・ケアマネ・包括
- ・息子へのアプローチ：現状報告と介入できるかの相談→ケアマネ

※現状と課題を把握できたことで、支援の具体性がみえてきた

9/14（月） 地域ケアネットワーク会議 18：30～20：30

目的：高齢者虐待防止法を知り、虐待防止ネットワークについて考える。

内容

- ①二宮町防災安全課より情報提供
- ②令和元年度 地域ケア会議の振り返り
- ③高齢者虐待防止法について
- ④高齢者虐待防止に向けてのアンケートのまとめ
- ⑤グループワーク
 - ・あれ？虐待かな？と思った場面はどんな場面ですか？
 - ・高齢者虐待防止に向けてどのような取り組みができるか？

意見など

- ・虐待の場面が具体的に知らない為、ケース提示と解決の具体的な対策を知りたい
- ・介護者のケアも必要
- ・通報義務＞業務上の守秘義務を確認できてよかった
- ・「虐待」ということは、なかなか知られない知られにくくなっていることが、防止にむけて壁になっているのかもしれない
- ・「虐待の通報」というハードルは高いので、「相談」というレベルでの報告が報告数を上げてひいては防止につながる
- ・知識や経験の共有や上乘せができるよう、事例検討会等やって頂けるとありがたい
- ・ちょっとした気づきでも通報してもらい、対応できるよう教育体制が必要だと感じた
- ・通報件数が少ないので実は潜在的にケースがあるのではないか？

10/15（木） 事例提出者：地域包括支援センターなのはな（社会福祉士）

対象者：86歳 男性 息子との二人暮らし

選定理由：支援者が困難に感じているケース

直接目的：①高齢者と引きこもりがちな息子との2人世帯のケース。いわゆる8050問題にどう向き合ったらよいか。

②若い世代で課題を抱える人をどう支援したらよいか。

③多職種でかかわったからこそ見えてきた地域の強み、弱みを再整理し、共有したい。

間接目的：個別ケースから地域課題を考える

会議概要：ケースの振り返り。本人、息子を担当した多職種（民生委員、MSW、平塚保健福祉事務所、包括）それぞれがケースを振り返ることにより、支援の強み、弱みを再確認した

■地域の強み

- 地域のつながりが強い
- 近所の人や民生委員さんの気づきが重要性である
- 民生委員さんがひとりで判断するのではなく、近隣の方と一緒に見守ってくださった
- 土日など支援機関が休みの時に見守ってくださる地域の方がいる

■地域の課題

- 若い世代の課題を把握することが難しい（高齢者がいるからこそ気づける場合もある）
- 民生委員の見守り対象は一人暮らし、高齢者世帯であり、同居世帯の把握は難しい
- 引きこもりに対する理解が難しい（知識、経験不足）
 - ※「引きこもり＝精神疾患」ではない
- 社会資源が少ない
 - ※若い世代の支援機関が少ない
 - ※介護保険では選択できるサービスの幅が狭い
 - ※土日に対応できる支援機関が少ない

■支援者の課題

- 支援機関があってもそこへアクセスできない人にどう寄り添うか
- 本人、家族の生活歴が知りたいと思うが、時間的な制約などから難しい
- 支援を望まない方へどうアプローチするか
- 本人に寄り添うこと、本人の声を聴くことの重要性を再確認する必要がある

課題解決にむけたそれぞれの役割など

- 支援者それぞれが、本人や家族に寄り添うこと、本人の声を聴くことの重要性を再確認する
- 「引きこもり」「8050問題」についてより深く学べるような機会を設ける

11/19（木） 事例提出者：事例なし

直接目的：①町の高齢者福祉サービス（高齢者認知症等行方不明SOSネットワーク・シルバー緊急通報システム）の理解を深めるため。
②町の認知症施策と「認知症とともに暮らす町づくり」に向けてのアンケート結果を踏まえて、地域ケア会議出席者に意見を聞きたいため。

間接目的：

会議概要：

①高齢者認知症等行方不明SOSネットワーク

（町高齢介護課地域包括ケアシステム推進班堀込氏）

登録の方法やSOSネットの情報発信の実際について等。

⇒今後の課題として、町防災安全課や大磯警察生活安全課と役割等の整理が必要。

②シルバー緊急通報システム（町社協 松永氏）

人感センサーの発動時間やペットを飼っている家の対応について。

⇒個別の生活に合わせた、センサーの設置を行い、誤作動のないように努めている。

その他、停電時やペンダント紛失の時の対応について確認。

③現状の二宮町認知症総合支援事業について報告（包括支援センター 松本）

⇒PPTを使い、現状の活動を報告。

④アンケート結果を踏まえて、話し合い

1. 認知症の理解が大事だと思いますが、どのような場面で理解が足りないと感じますか
 - ・認知症の知識があっても家族介護だと大変。認知症を理解してもらえるような工夫が必要。
 - ・子どもの頃からの教育（学校教育の一環としてできると良い）
 - ・生活の中で必要な店（商店やスーパー）への啓発。
2. 家族や介護者が認知症を理解するために、どんなことが必要だと思いますか
 - ・認知症について伝えきれないことが多い。認知症カフェに出向いてもらえるような仕組み。
 - ・専門職の経験や知識によって伝え方に違いがある。同じ指標で認知症のことを伝えられるようなツール。
3. 独居で認知症の方が暮らし続けるために、どんな支援があったらいいと思いますか
 - ・家族に頼らなくても良いサポートシステム。
 - ・介護保険サービスのうまい使い方を知れるような住民啓発。
 - ・悪徳でない、民間サービスの活用。それを知れる機会。
4. 認知症があっても活躍できること、場所として具体的にどんなことが考えられますか
 - ・当事者が特技を発表できる場を作る。
 - ・介護保険以外で目的を持って行ける場所を作ることで、進行予防につながる。

その他

- ・今回の意見を踏まえて、地域ケア課題整理会議でも議題に挙げ、具体的な認知症施策の取り組みができるようにしていく。

12/17(木) 事例提出者：二宮町地域包括支援センターなのはな(主任介護支援専門員)

対象者：77歳 女性 妻との二世帯

直接目的：令和2年12月に行方不明となった高齢者が発見されていない。今後の認知症施策について、多職種で検討したいため。

間接目的：地域課題把握・政策形成

会議概要

- ・ケースの報告と他市町村の見守りネットワークについて共有
- ・福祉用具専門相談員より、はいかい探知器の紹介

〇意見交換

町の方針

二宮町高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画において、認知症施策のさらなる推進を掲げている。

認知症予防の推進

- ①認知症に対する正しい知識の普及
- ②認知症の予防
- ③認知症対応力向上の推進

相談・支援体制の充実

- ①相談先の周知
- ②認知症初期集中支援チームの活動の推進
- ③認知症ケアパスの活用
- ④認知症地域支援推進員の配置による体制の整備
- ⑤認知症高齢者とその家族の推進
- ⑥地域の支援体制の構築
- ⑦町民全体で見守る体制づくり
- ⑧成年後見制度利用支援事業

意見

- ・保護された方を照会できるような仕組みづくりが必要
- ・地域の商店などとのネットワークづくり
- ・認知症サポーター養成講座を受けた方の活躍の場やステップアップ講座が必要。
- ・GPSなど、ICTを活用しやすくすること⇒ハードルを下げること
- ・福祉関係機関だけでなく、他の業種との意見交換
- ・情報の流れがわかる仕組み
- ・声かけ訓練の実施
- ・認知症を我がことととられるような社会づくり
- ・実際のケースを住民に知ってもらえるような啓発